# ペスタロッチー教育賞 受 賞 者 紹 介

学校法人ノートルダム清心学園 理事長

渡(わた) 辺(なべ) 和(かず) 子(こ) 氏

1927年北海道旭川に生まれる。陸軍将校であった父の異動に従い，幼いうちは東京，台北とたびたび居を替えた。高齢で授かった子であったため父からは特別に可愛がられた。9

ために二・二六事件で殺害される。その後は，父の名を汚さ

ノートルダム清心女子大学に教授として赴任を命ぜられる。翌63年には36歳で学長に就任，90年からは学校法人ノートルダム清心学園理事長を務めている。

学長就任以来，幼児教育，初等中等教育から高等教育に至

トリック系私学教育の振興にも尽力した。その間，68年にはウィーン大学で開催された世界会議「平和推進における大学

して語り出された言葉であり，また，今を生きようとする学生に向けられた教育者の言葉でもある。氏は，生き悩む学生に対し，困難に直面した人間がイエスの教えによっていかに導かれうるかを，自らの人生の苦難を例に語ってきた。その言葉は苦難の中にある読者に寄り添い，生を全うできるよう励ます言葉ともなっているのである。

渡辺氏の言葉は高みからの成功者の言葉ではない。氏自身の人生が決して順風満帆なものではなかったのである。確かに，恵まれた環境に育ち，終戦直後でありながら高等教育を受け，外国人に交じってオフィスワークをこなす最先端の女性であった。米国留学を果たし，36歳で学長に抜擢もされた。

りにし，厳しくしつけられながらも，希望した学

る。60代半ばになって膠原病を患い，副作用によって背骨の一部を失いもした。自分自身の苦難を飾らずに語る氏の言葉は，学生らの生き方に影響を与え，救いの言葉となっている。そして，いまや多くの人々の生きる指針として広がり始めている。

た。信ずるところに従い，貧困に苦しむ人々のために私財